

牛久：学校周辺に見る自然

第27号 ひたち野西近隣公園

2012年9月8日発行

＜ 水辺公園のトンボ ～③コシアキトンボ＞



枯れ草にとまるオス（左），木の細い枝にとまるオス（右上），ハコネウツギの葉の裏にひっそりととまるメス（右下）。

水辺公園で、シオカラトンボに次いで^{ついで}長期間にわたりよく見かけるのが、このコシアキトンボでしょうか。ここではだいたい、6月の頭から10月頃まで^{ころ}みられるようです。腹部にオスでは白、メスでは黄色の帯^{おび}のようなもようがあって、特にとんでいると、まるで腰の部分^{あいて}が空いているように見えることから、「腰空きトンボ」と名づけられたようです。オスはなわばり意識^{いしき}が強いのか、他のオスなどとしきりに争うようすを見かけます。飛んでいることが多いように思いますが、待っているとオスは枯れ枝^{かれえだ}の先にとまり、メスは木陰^{こかげ}などで休んでいるのを観察できます。【理科支援員：宮内】



池の上のなわばりをパトロールするオス（左）と、木の間をホバリングするメス（右）。